

重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目									
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。											
“ストップ温暖化しずおか行動計画”の推進(Gloval Warming)											
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策)/④部品・部材の耐用年数 ①複層ガラスを採用し、適切に断熱材を使用	Q-1	2	2.1	2.1.3	①	外皮性能				
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備				
				3.2	3.2.2	③	昼光制御				
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔				
					2.2.2	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔				
					2.2.3	④	配管・配線材の更新必要間隔				
					2.2.4	④	主要設備機器の更新必要間隔				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1				⑤	生物環境保全と創出			
			3	3.2			⑥	敷地内温熱環境の向上			
	■エネルギー対策 (⑦建物の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑧太陽光パネルを設置 ⑨LED等の高効率の照明器具を採用	LR-1	1				⑦	建物の熱負荷抑制			
		2	2.1			⑧	自然エネルギー直接利用				
				2.2		⑧	自然エネルギー変換利用				
		3				⑨	設備システムの高効率化				
		4	4.1			⑩	モニタリング				
				4.2		⑩	運用管理体制				
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫低環境負荷材) ⑫内装材は、躯体と仕上げ材が容易に分別可能 ⑫ハロン消火剤は未使用	LR-2	1	1.1		⑪	節水				
				1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム				
					1.2.2	⑪	雑排水利用システム				
		2	2.1	2.1.1		⑫	躯体材料の再利用効率				
				2.1.2		⑫	非構造材料の再利用効率				
				2.2		⑫	持続可能な森林から産出された木材				
				2.3		⑫	有害物質を含まない材料				
				2.4		⑫	既存建築躯体などの再利用				
				2.5		⑫	部材の再利用可能性				
			2.6	2.6.1		⑫	消火剤				
				2.6.2		⑫	断熱材				
				2.6.3		⑫	冷媒				
	■敷地外環境対策 (⑬温熱環境悪化の改善)	LR-3	5				⑬	温熱環境悪化の改善			
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)											
	■サービス性能対策 (⑭耐震・免震/⑮信頼性) ⑮通信設備の多様化を図り、地下への機器の設置はない。	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑭	耐震性				
					2.1.2	⑭	免震・制振性能				
				2.4	2.4.1	⑮	空調・換気設備				
					2.4.2	⑮	給排水・衛生設備				
					2.4.3	⑮	電気設備				
					2.4.4	⑮	機械・配管支持方法				
					2.4.5	⑮	通信・情報設備				
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)											
	■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ⑱階段のゆとり	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑯⑰	ユニバーサルデザイン計画				
			3	3.1	3.1.1	⑱	階高のゆとり				
					3.1.2	⑱	空間の形状・自由さ				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)	Q-3	3	3.1			⑲	地域性への配慮、快適性の向上			
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)											
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地内温熱上昇の防止・拡散に勤めている。	Q-3	1			⑤	生物環境保全と創出				
			2			⑳	まちなみ景観への配慮				
			3	3.2			⑥	敷地内温熱環境の向上			
	■敷地外環境対策 (⑬温熱環境悪化の改善)	LR-3	5				⑬	温熱環境悪化の改善			